

報告①

アジア資料の目録作成：課題と展望

東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）

徳原靖浩

令和4年度アジア情報関係機関懇談会

2023年2月10日 @国立国会図書館関西館

今日の報告について

1. 東京大学アジア研究図書館とは
2. アジア研究図書館における目録作成
3. アジア資料の組織化の課題
4. スキルの共有に向けたU-PARLの取り組み
5. 今後の展望

1. 東京大学アジア研究図書館とは

新図書館計画（2012～2020）の柱の一つとして構想

- 学内のアジア資料をある程度集約し、部局や専門の枠を越える研究拠点の創出
- サブジェクト・ライブラリアンの設置
- 総合図書館4階の開架フロア（約5万冊収容可）を軸に、総合図書館の保存書庫、地下自動書庫（約300万冊収容可）の一部も使用
- 2020年10月開館

現在、二つの研究部門が運営を支援：RASARLとU-PARL

アジア研究図書館を支える二つの研究部門

アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL） （2014年4月設置）

- アジアの5地域を担当する教員・研究員の配置
- 貴重資料のデジタル化、研究会、セミナー等の開催
- アジア研究図書館開館に向けた支援：書架の配置や請求記号の検討、移管図書の設定・分類

アジア研究図書館研究開発部門（RASARL）（2021年4月設置）

- サブジェクト・ライブラリアン（教員）3名を配置
- アジア研究図書館の業務を引き継いで統括
- ニューズレターの発行、寄贈資料の冊子体目録の発行等

2. アジア研究図書館における目録作成

基本の形

① 研究者が書誌情報をエクセル入力



②

目録担当職員（専任、がシステムに登録

当初、U-PARLでは研究員が目録規則を学んで図書館システム上で登録まで行う方法を模索したが断念し、目録担当の事務補佐員を雇用して登録する方式に落ち着いた。上記方式に加え、目録経験のある研究員は自分で図書館システム上で登録を行う（現在、U-PARLで行う登録は寄贈文庫分のみ）。

現在、アジア研究図書館の受入図書はRASARLが統括し、両部門のうち該当する言語・地域の担当者がエクセル入力したものを、総合図書館の目録係が登録する方式を採る。和欧中文資料については書誌データ作成から目録係が行う。

※エクセル方式においては、①-②間のコミュニケーションが肝要

3. アジア資料の組織化の課題

現在起っている or 今後予想される目録作業の環境

- 雇用の「合理化」、人材のアウトソーシング化
 - ➔ 目録作成を担える人材はますます希少に
- 目録規則の多様化、書誌調整の廃止
 - ➔ 他機関との意思疎通も希薄に
- 図書館一般のロジックに流される
 - ➔ 研究図書館の専門性はますます希薄に

図書館の発展の中で見えなくなるアジア資料

ディスカバリサービスや次世代OPACにおいても、

未知の資料を探すための主題検索は、図書館の目録データに大きく依存

なのに、

多言語資料の目録作成では、主題分類・件名の付与が省略されがち



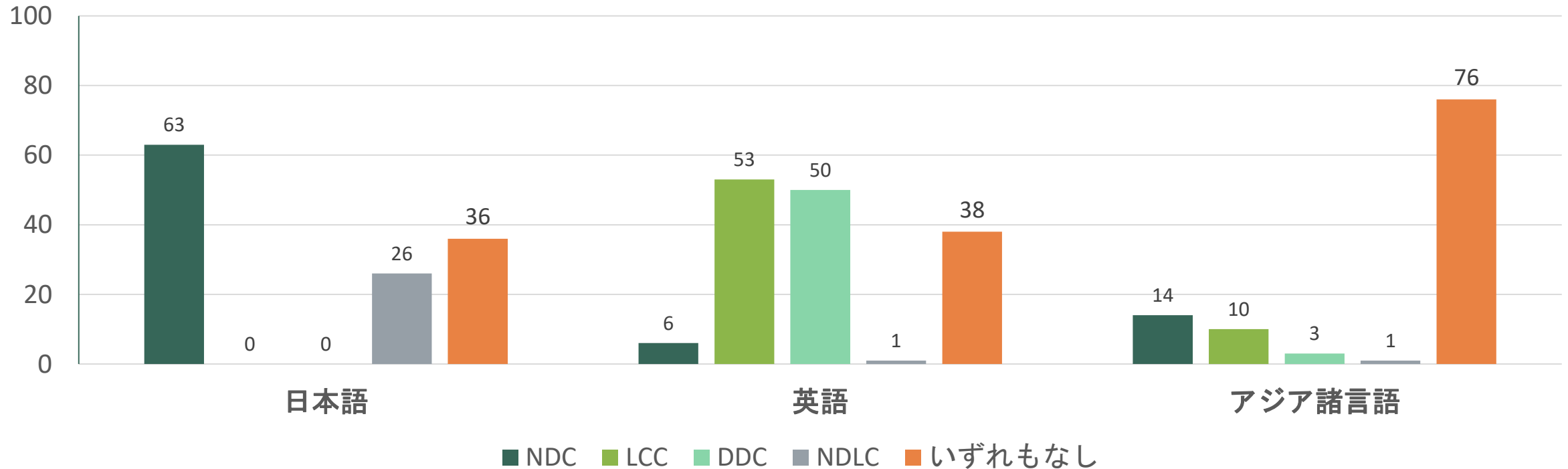
アジア資料の7割強は、分類で検索しても見えない状態

データベース検索では、見えない資料があるという事実も見えにくい

3. アジア資料の組織化の課題

アジア資料の76%は分類で検索できない

NACSIS-CATの書誌レコードのうち、分類記号が付与されているものの割合



単位：%（小数点以下は四捨五入） 2021年4月6日CiNii上で検索して算出。算出方法については、徳原（2021）を参照。

目録作成のハードル

和文・欧文資料にはない、多言語資料の技術的ハードル

- 最大のハードルは言語。それに付随して、ローマ字翻字方式、文字コード、システム環境の知識が必要
- 出版文化の違い：版と刷の区別がない、暦の違い、情報源の不足、etc.
- 目録規則だけでは答えが出ない場合も多い（経験の蓄積が必要）

作業の分担から生じる間違いの例

LCの翻字規則に則っていない (ḥとh、āとaなどが混同) ローマ字情報から機械的にアラビア文字に置き換えたと思われる例。現物を見てアラビア文字を手入力すれば起こらないタイプ間違い (赤字部分)。

誤：

تاريخ النور السافر عن اخبار القرن **الأشر** تأليف محيي الدين عبد القادر بن شيخ بن عبد الله العيدروسي. **سهه** و**دبته** **مهمد** رشد **السفر**

正：

تاريخ النور السافر عن اخبار القرن **العاشر** / تأليف محيي الدين عبد القادر بن شيخ بن عبد الله العيدروسي ; **صححه** و**ضبطه** **محمد** رشيد **الصفار**

4. スキルの共有に向けたU-PARLの取り組み

アジア資料目録作成ワークショップ

- 東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室で行っていたアラビア文字資料司書連絡会の情報共有体制を一部継承（メーリングリストの活用、意見交換会）

マニュアル、資料等の作成

- 澁谷由紀・宇戸優美子・佐藤章太編『ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集』2021年11月
- 協働型アジア研究「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成ワークショップとマニュアル作成」の一環として目録作成マニュアルの刊行を予定

アジア資料目録作成ワークショップ

- 主旨：いま必要なくても今後必要になるかもしれないスキルの共有
- 参加者：大学・研究機関図書館の目録担当者、実務作業者が主
- これまで年1回のペースでオスマントルコ語編、チベット語編、ペルシア語とアラビア語編、ウルドゥー語編、現代ウイグル語編を開催
- ワークショップ後に多言語資料全般に関する情報共有の機会も設ける

ワークショップをやってみてわかったこと

1. 情報共有が必要

他の機関でも似たような点で悩んでいる、しかし対処法は多様

2. 継続が必要

以前に決まった規則等も、担当者が変わると分からなくなる

3. 交流しやすい場が必要（対面&オンライン）

ワークショップをやるとうメールリストが少し活性化する

5. 今後の展望

北米の中東ライブラリアン協会（Middle East Librarians Association）の例：
メーリングリスト、年次大会による交流のほか、目録委員会などの分科会を作り、レクチャーやマニュアルの作成を行っている。年次大会には米国議会図書館の担当職員も出席し、新聞の共同購入などについて検討を行うなど、実務的な打ち合わせの場としても機能している。

日本においても、

- 目録についてだけでなく、多言語資料を扱う同業者の繋がりで知識やスキルを共有し、継続的に蓄積していくことが重要
- 他の情報資源組織関係組織（学協会、研究会）との連携が今後の課題

参考文献

- 澁谷由紀・宇戸優美子・佐藤章太編『ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集』2021年11月。
http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/11/SEA_2021glossary-asian_research_library_1.pdf
- 徳原靖浩「イスラーム地域研究資料の収集・整理・利用の課題と展望」『情報の科学と技術』Vol. 66, no. 1(2016): 8-13. DOI: 10.18919/jkg.66.1_8
- 徳原靖浩「大学図書館におけるアジア資料の分類付与状況と、目録業務に関する提言」『メタデータ評論』1(2021): 47-54. https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.1.0_47
- 日本図書館研究会情報組織化研究グループ「月例研究会報告「アジア資料の組織化の課題」（徳原靖浩）」2022年6月18日. <https://josoken.digick.jp/meeting/2022/202206.html>
- 原香寿子・守屋文葉「東京大学総合図書館本館の改修」『大学図書館研究』120(2022): 1-11. DOI: 10.20722/jcul.2126
- MELA “Cataloging Manuals.” <https://sites.google.com/princeton.edu/mela-conc/>
- U-PARL「第3章 アジア研究のための書架分類：アジア研究図書館分類法の成り立ちと思想」U-PARL（編）『図書館がつなぐアジアの知：分類法から考える』東京大学出版会, 2020, 47-89.